

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) 東京製鐵株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目7番1号 霞が関東急ビル15階	
本票作成	部署名：岡山工場 管理部 安全環境防災課				
主たる業種	分類コード	22	業種名：鉄鋼業		
事業の概要	各種鉄鋼製品(形鋼・異形棒鋼・ホットコイル・酸洗コイル・溶融亜鉛メッキコイル・カットシート等)の製造及び販売。				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山工場		岡山県倉敷市南畝4丁目1番1号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 ( 5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 5.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準						○	
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 元 年度)			目標年度 (令和 6 年度)					
	273,250 t CO <sub>2</sub>			404,691 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 元 年度) の排出量					
	①	岡山工場		273,250 t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容		原単位当たり排出量			
	生産数量		基準年度		目標年度	
			486.643		462.311	
		kg CO <sub>2</sub> / ( t )		kg CO <sub>2</sub> / ( t )		

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標		関連数値 (令和 元 年度)		達成率 (%)
指標の状況	電炉による普通鋼製造業	0.143	kl/t 以下	0.199	kl/t	71.9%

【目標削減率設定の基本的な考え方】

令和元年度(2019年度)のCO<sub>2</sub>排出量は、生産量が能力の概ね67.5%程度でしかなかった影響で少なかったが、5年後は生産能力に見合った生産が出来ていると仮定、即ち、330ch/月×210良塊t/ch×12月/年=831,600良塊t/年とする。従って、令和元年度(2019年度)より、1.481倍多くのCO<sub>2</sub>排出量となるが、これから2030年迄に1,700kgCO<sub>2</sub>を削減する目標の4分の1(=4工場均一割)の半分(5年後)削減を目標とする。詰り、273,250 t CO<sub>2</sub>×1.48103-(1.7/4/2)=404,691 t CO<sub>2</sub>とする。  
 又、CO<sub>2</sub>排出原単位は、各年毎に1%ずつ5年間で5%の削減を目標とし、基準年度の95%に当たる462.311kgCO<sub>2</sub>/tとする。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

毎月1回環境委員会と省エネ委員会を開催し、2020年1月に発行した環境報告書2019で提示のアクションプラン(短期目標)の実行活動について、進捗状況の確認管理を継続し、原単位削減に努める。

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
岡山工場	(平成30年度実施分) ①中形工場の天井灯(水銀灯等)をLEDに変更することにより、電力使用量の削減を図った。 ②整備場と熱延倉庫の天井灯(水銀灯・ナトリウム灯)をLEDに変更することにより、電力使用量の削減を図った。 ③中形加熱炉のレキュペレーターを高効率タイプに更新し、排ガス回収熱量を上げる事で、LNG使用量の削減を図った。 ④中形加熱炉(均熱帯)の天井を熱伝導率の小さいセラミックファイバーに変更し、熱損失を減少させる事で、LNG使用量の削減を図った。 (令和元年度実施分) ①棒鋼工場ライン・倉庫の天井灯(水銀灯等)をLED(70灯)に変更することにより、電力使用量の削減を図った。 ②DC製鋼工場のNo. 3CCM関係控室・運転室等の照明(蛍光灯)をLED(80灯)に変更することにより、電力使用量の削減を図った。 ③中形加熱炉加熱帯側壁を熱伝導率の小さいセラミックファイバーに変更し、熱損失を減少させる事で、LNG使用量の削減を図った。

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
岡山工場	(今後実施予定分=令和2年度予定分) ①DC製鋼工場排ガス分析装置の分析結果に連動させた電極昇降の最適化(AMI)システムを構築し、電力使用量の削減を図る。 ②冷延・メッキ水処理関係の水処理ポンプを高効率ポンプに変更する事により、電力使用量の削減を図る。 ③半製品(ブルーム)の保温用ホットドームを2基増設し、LNG使用量の削減を図る。 ④一般コンプレッサー2台の更新を行い、LNG使用量の削減を図る。 ⑤外灯照明150灯をLED化し、電力使用量の削減を図る。 ⑥棒鋼加熱炉の炉壁と天井レンガをセラミックファイバー化し、熱損失を減少させ、LNG使用量の削減を図る。

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無
その他	無

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無
その他	無

**【その他特記事項】**

当社のホームページに「東京製鐵の環境への取り組み」を掲載しており、この中で2017年6月28日以降から現在迄の当社に関するニュースを詳しく紹介している。毎年発行の「各年度環境報告書」やCDP気候変動レポート、WWFジャパン「企業の温暖化対策ランキング」、CO<sub>2</sub>排出量に関する第三者保証、省エネ法事業者クラス分け評価制度、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同、環境製品宣言(EPD)を取得等々について、是非当社の環境への取り組みをご一読願いたい。